

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使うてほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

《試料・情報の利用目的及び利用方法》

●研究の名称

大脳深部に生じる大径梗塞の鑑別

●研究の対象

2010年1月1日から2018年12月31日に、京都第二赤十字病院脳神経内科に入院した脳梗塞患者さんの中で、梗塞サイズが20mm以上の大脳皮質下梗塞の患者さんを対象とします。

●研究の目的

大脳皮質下梗塞には、穿通枝の分岐部のアテロームプラークにより穿通枝全体が閉塞し高度の運動麻痺をきたすことの多い branch atheromatous disease (BAD) 型梗塞と、大半が塞栓症である線条体内包梗塞があります。これらは治療が異なるにもかかわらず、入院治療開始時に区別が困難なことが少なくありません。このため、本研究では、両病型の頭部 CT/MRI 画像を比較して梗塞分布の差異を検討することとしました。

●研究の期間

研究機関の長の実施許可日から2024年6月30日まで

●研究の方法

日常診療時に得られる下記の《利用する試料・情報の項目》について調査します。

《利用する試料・情報の項目》

●試料：なし

●情報：診療録から、診断名、病歴、身体所見、臨床検査値、頭部 CT/MRI 画像を抽出します。

なお、利用する上記の試料・情報からはお名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報削除します。

《利用を開始する予定日》

研究機関の長の実施許可日

《利用する者の範囲》

●研究機関名および研究責任者名

京都第二赤十字病院 脳神経内科 永金義成

《試料・情報の管理について責任を有する機関の名称》

京都第二赤十字病院

《試料・情報の利用の停止（受付方法含む）》

患者さん又はその代理の方が、この研究への参加（情報を利用すること）にご協力いただけない場合は、以下の《問い合わせ先》にご連絡ください。研究にご協力されなくても、診療等において不利益を受けることはありません。ただし、ご連絡いただいた時期によっては、解析が完了している、結果が論文などで公表されているなどの理由であなたのデータを取り除くことができない場合がありますことをご了承ください。

《問い合わせ先》

研究機関：京都第二赤十字病院

担当者：脳神経内科 永金義成

住所：〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355 番地の 5

TEL：075-231-5171（代表）